

No. 91

すくらむ

2019.2.28 発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P.1

巻頭言

「なんのための、誰のための教育か」

P2

- ・平成30年度「新任特別支援学級担任教員研修」と「特別支援教育コーディネーター養成研修（特別支援学校）」の連関
- ・平成30年度「新任特別支援学級担任教員研修」と特別支援学校の「センター的機能」の強化

P3

- ・市町のエデュケーション委員会との協働による学校支援
- ・福井県特別支援教育センター研究紀要の紹介

P4

- ・実践研究発表会 報告
- ・教育支援専門員だより

巻頭言

「なんのための、誰のための教育か」

福井県特別支援教育研究連盟会長 水間 貴子 氏

こうして「すくらむ」を手にしておられる皆様方の中には、教育に携わっておられる方がいるでしょう。その方にお尋ねしたいことがあります。「どうして教師の道を選ばれたのですか。」

私の苦い思い出を聞いてください。小学校3年生の担任だった私は、計算ドリルの1ページを子供たちに課題として与えました。残り一人。日ごろから算数を苦手としているその女の子は、時間が来てもノートを持ってきません。自分の指導方法に自信を持っていた私は「どうしてできないの。しっかり考えれば分かるはず。」と声を荒げました。その子は泣き出し、そのことにも苛立ちを覚えた私です。

きっと皆さんは、若い私にこんなアドバイスをくださるでしょう。「しっかり考えろという漠然とした言い方では分かりようがない。その子にあった指導方法があるはず。」と。未熟な私でしたが、自分なりに後味の悪さを感じていたのでしょうか。何十年も経った今でもその場面が忘れられません。

その2年後。特殊学級（当時）の男の子が家庭科と音楽の時間に交流に来ることになりました。自閉症のお子さんでした。視線こそ合いませんでしたが、授業にやってきても騒ぐことなく、与えられた課題に一心に取り組んでいました。裁縫での丁寧な作業ぶりには感心させられました。

その子のお母さんと懇談した時のことです。にこやかな笑顔で私の前に来られたお母さんの話に大きなショックを受けました。「息子を連れて死のうと思ったことが何度もあります。それでも今は、次に生まれ変わるとしてもこの子の母親になりたいと思っています。」衝撃で胸が詰まりました。今思い出しても涙が出てきます。

再度お尋ねしましょう。「どうして教師の道を選ばれたのですか。」「今行っている教育活動は、誰のための、なんのための教育活動ですか。」

一人一人のニーズに合わせた丁寧な指導。考えてみれば当たり前のことでした。私たち教師は、目の前の子供たちを幸せにするために教育を行っているのですから。これからも謙虚さと確かな目的意識を持って、教師という道を仲間とスクラムを組んで邁進いたしましょう。

平成30年度「新任特別支援学級担任教員研修」と

「特別支援教育コーディネーター養成研修（特別支援学校）」の連関

今年度より、上記2つの研修については内容を変更するとともに連関して、より研修者のニーズに対応できるように改善しました。

「新任特別支援学級担任教員研修」（以下、「新特担任研修」）については、近年の特別支援学級の増設に伴う新任担任教員の増加に対応できるように、担任教員として必要とされる学級経営、学習指導、児童生徒理解等に関する基礎的事項により重点を置く内容に改めました。具体的には、「学級経営スタート講座」「個別の指導計画作成と活用」「学習指導案と授業作り」についての講義を新たに設けました。

「特別支援教育コーディネーター養成研修（特別支援学校）」（以下、「特コ養成研修（特支校）」）については、特別支援学校の「センター的機能」として特別支援学級担任をサポートすることに重点を置き、4回の研修のうち3回は「新特担任研修」に合流し、先生方の生の声が吸収できるようにしました。

分からないことだらけのスタートでしたが、講義を聞いて、特別支援学級担任としての1年間の学級事務や学級経営の見通しを持つことができ、ホッと安心しました。教材や雑誌、HPの紹介も有難かったです。

実際の授業を見ることで、学習環境や教材、掲示物、教師の言葉かけなどを工夫することがいかに重要であるかを痛感しました。また、目の前の子どもに寄り添い、丁寧に関わっている姿に感動しました。明日からの指導や支援に、できる限り取り入れていきたいです。



「新特担任研修」受講研修者のアンケートより

個別の指導計画は、担任一人で作るのではなく、本人を取り巻く複数の支援者で作成していくのだと改めて実感しました。作成することでいっばいで、活用というところまで辿りついていないのが現状でしたが、他の学校での活用の仕方を聞くことができ、とても参考になりました。無理のない範囲で活用していけることを目指していきたいです。

「特コ養成研修（特支校）受講研修者のアンケートより

新特担任の先生と直接顔を合わせる機会があったことで、文字や言葉だけでは伝わらない表情や雰囲気、人柄などを直接感じることができ、どのようにサポートしていけると良いのかを、具体的に考えることができたと思います。

第3研修では、新特担任の先生の実践報告の中で、いろいろな事例を聞くことができ、特支校の特コとして何ができるか考えるヒントになりました。



グループ協議の中で、新特担任の先生に対する先輩特コ（特支校）のアドバイスの様子や内容が参考になりました。新特担任の先生の努力している点について実践報告の中から読み取り、それを丁寧に伝えていたことが印象的でした。

平成30年度「新任特別支援学級担任教員研修」と

特別支援学校の「センター的機能」の強化

特別支援学校（以下、「特支校」）の「センター的機能」を活用し、新任特別支援学級担任への支援を強化するために、①新特担任第1研修において、特支校の「センター的機能」についての説明及び特支校相談担当者との顔合わせ、②市町教育委員会経由で、各受講研修者の所属長あてに特支校の「センター的機能」を活用した新特担任支援についての文書を配布、③年度始めの特支校校長会で、新特担任支援の依頼（特別支援学級（以下、「特学」）新設の学校、単学級を中心に）、④昨年度の特支校アンケート受け、新特担任研修の内容を変更するという4つの取組を行いました。

この取組後の、特支校の相談担当者へのアンケートでは、新特担任第1研修への参加は、特学につながる上で、ほとんどの特支校から「役立った」と回答があり、個別ケースの相談、教材提供等の支援をしていただきました。新特担任とさらにつながりをもつために、相談申請書の簡略化をして相談しやすしたり、授業を公開したりするなど学校独自の特色を生かしながら特学支援を行った特支校もありました。また、受講研修者からは、「些細な悩みに丁寧に答えていただき、日ごろの悩みを相談できた」「具体的にどうすればよいのか専門的なアドバイスがいただけた」「気軽に相談できる身近な存在として相談できる人がいて安心」などの感想をいただきました。今後も、更に新特担任の先生方の強力なサポーターとなっていただけことを期待しております。

当センターでは、平成23年度から、支援が必要なすべての子どもたちに対して、管理職や特別支援教育コーディネーターが中心となって、学校が自ら組織的に子どもや担任を支える特別支援教育の推進に協力する「学校支援」を行っています。平成28年度からは、3か年計画で「学校支援」の取組について小中学校を管轄する市町教育委員会にも協力を依頼し、協働して学校を支援する「市町実践マニュアルモデル事業」を展開してきました。

この事業では、市町の指導主事とセンター所員と一緒に学校を訪問し、校内支援体制の整備についての現状や課題の把握、教育支援委員会で判断が出された児童生徒の状態像支援の追跡をしています。実際に授業を参観し、担任や特別支援教育コーディネーターと話をしたり、管理職の方に学校の体制について話をうかがってきました。

A市の指導主事より

A市では、毎年1校を協力校として指定し、センター指導主事と市指導主事が学校を訪問した。指導主事訪問日以外の日を設定することで、校内支援体制の聞き取りや、気がかりな児童生徒の授業参観後の授業者への助言、個別の指導（支援）計画シートの作成状況の確認等に十分な時間を取ることができ、学校の満足度も高かったようである。今後もセンターの助言をいただきながら、市教委が主体的に各学校の特別支援教育体制の確認と助言を進めていきたい。

B市の指導主事より

私は指導主事学校訪問で、一般の授業に加え、特別支援学級の授業も観ている。今回のモデル事業学校訪問は、校内支援体制の聞き取りや通常学級在籍の気になる児童生徒の授業参観に同席し、授業ので見取り方と、その指導・助言を聞かせていただいた。正直、私は特別支援教育に関しては専門外なので、今回の気になる児童生徒への指導および担任、学校への指導・助言は非常に参考になった。これからの学校訪問等で、ぜひ生かしていきたいと考えている。

C市の指導主事より

本来、市町で指導・助言すべきところを専門的な立場でご指導いただけて有難かった。学校側にとって、個別の指導（支援）計画は、作成することが目的ではなく、活用することが大事だと言う意識改革ができたと思う。管理職や特別支援教育コーディネーターとの面談では、それぞれの立場に応じたアドバイスをいただき、また、担任との面談では担任の思いを汲み取りながら話を聞いてくださり感謝している。今後の指導主事訪問では、市教委が主体的に取り組んでいきたい。



各市町の指導主事の方も、この取組を有意義に感じてくださり、当センターとしても大変有難いです。これからも市町教育委員会と協働しながら、学校支援を進めていきたいと考えています。

*この事業の詳細につきましては、特別支援教育センター平成28年度研究紀要(第34号)に記載、平成30年度研究紀要(第36号)に記載予定です。

福井県特別支援教育センター平成30年度研究紀要(第36号)の紹介

当センターでは、毎年「研究紀要」という形で、所員それぞれの1年間の実践をまとめています。本年度は、「読み書きのつまずきに対する早期発見・支援に関する学校支援」をテーマとし、小学校の低学年における通常の学級にいる児童の学びを支える学校支援の実践を行ってきました。本研究紀要では、「校内のキーパーソンとの協働による校内支援体制づくり」「学年団との協働による取組」「特別支援教育コーディネーターによる授業づくり支援」について9事例の報告をいたします。学年度末には、各学校に送付しますので、ぜひご覧ください。



実践研究発表会 報告

平成31年2月6日（水）当センターにおいて、実践研究発表会が開催されました。授業づくり、行動コンサルティング及び記録の効果、生徒の好きな活動を学習に取り入れた実践、問題解決に向けての他職種連携例、高等学校における合理的配慮、読字障害のある生徒への支援といった実践報告がなされました。今年度は、テーマを「つながりや協働を意識した取組」と掲げたこともあり、園、学校以外にも関係機関からの参加者が多数ありました。

参加者からの声

【清水北小学校の実践から】

「学校全体を巻き込んで、特別支援教育への意識や力量を高めることができた素晴らしい取組みだと感じた」「学力向上と特別支援教育が表裏一体であることを再確認した」

【嶺南東特別支援学校の実践から】

「熱心な家庭訪問、保護者支援により、子どもが望ましい行動を定着できるようになった取組が素晴らしいと感じた」「記録を継続することの大切さを実感できた」

【福井南特別支援学校の実践から】

「校内で支援方法を統一させ、生徒の好きなこと、強みを上手に引き出されており、今後の支援のお手本にしたい」「プラス面に働きかけることの大切さを学んだ」

【武生高等学校定時制の実践から】

「たくさんの連携先を教えてください参考になった」「連携するにあたり、軸となる学校がコーディネートしていく役割をきちんと果たすことが大切だと感じた」「各機関と連携し、解決にあたる労力に頭が下がった」

【若狭高等学校の実践から】

「生徒がもつ読み書きの困難さのみに焦点を合わせるのではなく、学校生活全体、クラス、学校全体、将来のことまで視野に入れて支援を考えていることに感動した」「合理的配慮の内容が明確であり、本人に適した支援をその都度見直していることが素晴らしかった」



実践発表後、

福井大学連合教職大学院の新井豊吉氏、小杉真一郎氏、笹原未来氏、小嵐恵子氏から助言をいただきました。「アセスメントの大切さを感じた実践発表であった。実態把握は一番初めに行い、そこから課題を考えていくことが大事」「評価は子どもの姿。評価をしてどう育ったか、どう変容に結び付いたかをまとめていけるとよい」などのお話をいただきました。また、「支援は重要だが、できないことに目がいく。できることに視点を置いた支援であってほしい」「事例を積み重ねていくことで合理的配慮が当たり前のように学校の中に存在するようになっていく。いろいろな人が連携し、みんなで考え、それを蓄積していくことが大切」など、示唆に富んだ助言をいただきました。

参加者からのアンケートでも、実践研究発表会当日は、「これからの新しい特別支援教育のあり方について、様々な視点から探る機会となり、とても参考になりました」など多数感想をいただきました。

教育支援専門員だより

今年度も昨年度に引き続き3名の教育支援専門員が当センターを拠点に、小中学校を訪問し学校支援事業を行いました。この事業は3年計画で、2年目の今年度は、大野市、勝山市、あわら市、坂井市、鯖江市、越前町、池田町の小中学校を訪問させていただきました。御協力いただきました管理職や関係の先生方ありがとうございました。

教育支援専門員は、よりよい特別支援教育を推進するため、「個別の指導計画・個別的教育支援計画の作成と活用」「特別支援教育に係る校内体制の整備」「年間計画に基づいた特別支援教育の推進」「保幼小中高の丁寧な接続」等についてお話しさせていただきました。

来年度は、越前市、南越前町、敦賀市、小浜市、美浜町、若狭町、おおい町、高浜町の小中学校を訪問いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

センターだより すくらむ第91号



発行日 平成31年2月28日
発行所 福井県特別支援教育センター
所在地 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1
TEL (0776)53-6574
FAX (0776)52-6272
E-mail tokuse@pref.fukui.lg.jp
URL <http://www.fukuise.ed.jp>